

第一四回総会報告

5月20日(土)立川リスルホールにて24名が参加して開催

5月20日、2023年度の「横田基地問題を考える会」総会が立川リスルホールにおいて24名の参加で開催されました。開会あいさつでは、長期療養から復帰された岩田さんは現在の日本経済を取り巻く厳しい情勢と軍拡を阻止するための政治的課題についての展望を熱く語られました。続いて昨年「横田基地その変遷とたかひの記録」編纂にあたり中心的な役割を果たしながら不慮の事故で急逝された後藤太刀味さんのご冥福を祈り黙祷を捧げ

ました。

続いて「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の高橋美枝子さんに「訓練激化の横田基地と新たなPFAS汚染」と題して講演をしていただきました。講演では横田基地の機能強化されている実態や激化する日米共同訓練の様子について多くの写真パネルを使って解説していただきました。特にC130輸送機を使ったパラシュート訓練やKC130の空中給油訓練、F35B戦闘機やF16戦闘機の横田基地周辺での訓練激化な

横田基地問題を考える会

ニュースNo. 68

連絡先

電話&FAX 042-531-4471

ホームページ アドレス

Yokota-peace.sunnyday.jp



どあらゆる事態に備えた訓練が自衛隊と一体で行われている事例が紹介されました。また横田基地由来のPFAS汚染に関してこの間の学習会や血液検査の結果から住民の健康リスクが深刻な問題になっていくことで今後国や都を動かしていく運動の重要性を強調されました。講演の最後に、今横田は大変な状況になっている中、ASEANが結成されてからアジアでの紛争による死者が他の地域よりも少なく戦争をしない方向で平和が保たれている。平和に逆行する日米一体の軍拡に反対し、横田基地の撤去を今後も進めていきたいと決意を語っていただきました。

「横田基地その変遷とたかひの記録」第2版ができました

昨年400部出版した第1版は好評のうちに完売しました。今回写真や年表をリニューアルして第2版を追加出版しました。購入を希望される方は事務局までご連絡ください。

後世話人の井出さんから会計報告と藤谷さんから監査報告がありました。続いて沖縄県民と連帯する府中の会の桃井さんから、「今沖縄南西諸島に自衛隊基地が強化され、ミサイルが配備されるなど、戦争状態の様相を呈している。オスプレイ配備やPFASの問題のように沖縄で起きていることは日本本土でも起こりうる。沖縄が日米軍に占領されていることは他人事ではない。府中の会は2か月に1回けやき通りで街頭宣伝を行っている。沖縄の諦め

ない闘いに連帯して頑張っていくきたい。」という連帯のあいさつをいただきました。

参加者からの主な発言は以下のとおりです。

●立川駐屯地へのオスプレイが3回飛来したが、反対行動参加者は少なくなっている。今後も飛来が予想されるので、地域にどう広げていけばいいか課題。

●軍拡ウィルスが世界に蔓延している。コロナもPFASも軍拡も目に見えない。汚染を防ぐワクチンはないのか。●PFAS汚染は横田基地が汚染源だと思いが水道水を飲んでも体には変化は感じられない。地位協定の問題でなかなか難しい。日本は独立国なのか。自分の問題として考え多くの人に知らせていきたい。●PFASの問題で国分寺や若葉の人と話している。野菜に影響しているか心配。東京新聞だけでなくほかの新聞でも取り上げてもらいたい

●高校生平和ゼミナールの活動で3月に沖縄で集会があった。そこで横田の基地問題のことが取り上げられた。●PTSD兵士

の問題で活動をしている。戦争で心を壊したPTSD復員兵士をもつ家族と語り合う会を立ち上げた。PTSD兵士の原因は戦争にあることを広げる活動をしているのでぜひご支援をお願いしたい。●新

横田公害訴訟は5月第2回の弁論があり5人が意見陳述した。9月には国からの反論が始まる。今後cVオスプレイの飛行差し止めを方針として立証していく。ホバリングは国会、都庁でも取り上げられたが、米軍と防衛省の姿勢は看過できない。全国8つの原告団で政府交渉を準備している。オスプレイの市街地上空での変換モードでの飛行をやめさせたい。●新横田公害訴訟では502人の原告が名を連ね新しい人が増えていて連

動が広がっているのが今回の特徴。日米の動きが危険だということを実感している。●考える会を持続させるため、会費について

考えていく必要がある。●立川駐屯地へのV22オスプレイが場周経路から変換モードで侵入するのを確認した。市民の不安の声が市に寄せられ、市として防衛省に要請。住宅地上空を飛ぶこと自体が問題。PFASについては取水を止めるだけでなくPFASを除去させることを要求したい●5月21日

は横田友好祭なので座り込みは福生市民会館で行い友好祭参加者にアピールしたい。●(血中濃度が高かった)今水道水は飲んでいない。富士山系のペットボトルは東富士演習場が近いのでPFAS汚染が心配。G7では事前に日米で抑止力論を確認したが、戦争そのものを否定することが大切。抑止

力論を克服し、憲法を守る立場を広げたい。●岸田内閣は憲法違反の悪法を次々と通そうとしている。防衛力支援法案は防衛産業を税金で支援する内容で許せない。立民もこの法案に賛成したのは驚き。●

オスプレイはまだ見えないが、ヘリや輸送機はよく見るが何もできないのは残念。岸田軍拡を何しても止めたい気持ちと同じ。税金がどう使われるのか監視していきたい。●高橋さんの講演で横田の危険性を感じている。我々の知らないことがどんどん

進んでいる。(PFAS)で水が飲めない時代になり戦争になったりするよくなひどい世の中にさせないようになりたい。●昨日昭島美堀町で昼頃オスプレイが2度来た。ホバリングはものすごい音がした。騒音が年々ひどくなる。9時10時に夜間飛行をする。基地問題はどんどんひどくなる。●昨年作った横

田パンフはよくできていたのでもっと広げていきたい。66年前の立川基地反対闘争で基地に立ち入った写真を載せていただき晴れがましい思いをしている。●立川は山も海もなく安全だと思っていたが空からオスプレイが落ちてくるのではとおもいき空を見上げてしまふ。高橋さんの説明が分かりやすく(基地被害を)みんなで止めなければという思いを強くした。PFASに汚染された地場野菜を給食で子どもたちに食べさせていたので心配。



沖縄戦と基地問題について学び交流した 高校生平和集会

沖村民雄（高校生平和ゼミナール世話人）

横田基地前の座り込み行動に、時々20人以上の大勢で参加してくれる高校生平和ゼミナールのみなさんが沖縄に行きました。その時の様子を投稿していただきました。

3月27日から沖縄で全国高校生平和集会が開催され、埼玉、東京、神奈川県、愛知、広島、沖縄から60名の中・高校生と大人20名が参加した。沖縄での高校生平和集会は1996年に初めて開催、今回は2018年12月以来7回目。何度も示された新基地建設反対の県民の意思を無視して辺野古埋め立て工事が強行され、南西諸島のミサイル基地化が進められているなかで開



催された。

初日は、南部戦跡をめぐって沖縄戦について学んだ。轟壕、ひめゆり平和祈念資料館、魂魄の塔、平和祈念公園（平和の礎）、夜は開会集会（基調報告・各県の活動報告）と具志堅隆松さん（遺骨収集ボランティア）のお話「戦後処理と新たな戦前の始まり」。

2日目は、普天間基地や嘉手納基地を見学し、辺野古でのミニ学習会で金城武政さん（辺野古住民）や長堂登志子さん（沖縄県民間教育研究所）らのお話を伺った。その後、座り込み抗議行動と土砂搬入の現場をみた。夜は屋良朝博さん（前衆議院議員）のお話「国のため、あなたは戦いますか？」とグループ討論。3日目は閉会集会のあと、オプショで伊江島に行った。最終日には県庁前で核兵器廃絶を求める署名活動を行った。

この集会に玉城デニー

沖縄県知事から激励のメッセージが寄せられた。

沖縄集会で学んだ思いを「寄せ書き」にして玉城知事に届けた。「友情と学びこそ平和のための抑止力」「平和の武器は学ぶこと」「沖縄での学びをこれからにつなげ、東京から声をあげていきます」「共に永久平和を！・・・集会アピールは「戦捨てていしけーんかい 肝がなさそう みるくせ（戦争を捨てて世界に愛と平和を）！」とよびかけている。

東京のYさん（中3）は「座り込みを生で初めてみて圧倒されました。毎日毎日最後には追い返されるとわかってるのに座り込みを続けて、沖縄の民意を態度で示すというのは本当にすごいことだと思いました」と語った。Rさん（高校1年）は「新辺野古基地建設反対の座り込みにて、市民の声に全く耳を傾けない政府や、基地

建設のために運ばれてくる土砂の中に沖縄戦の戦没者の遺骨が混じっているという事実にも、悔しい気持ちになりました。『自国民を殺した国のために亡くなった国民の遺骨が混じった土を使って基地を作るとするのは、人としても、国としてもおかしいことだ』とおっしゃっていたのが今でも記憶に残っています」と感想を寄せている。

沖縄のHさん（高2）は「参加者に沖縄戦と基地問題について知ってもらい、自分たちの問題として受け止めてもらえた。これからは伝えていくために頑張りたい」と語った。日本国憲法と日米安保体制について学び話し合うことがますます重要になっていきます。



横田基地をめぐる様々なこと

鈴木 隆 (昭島市小学校講師)

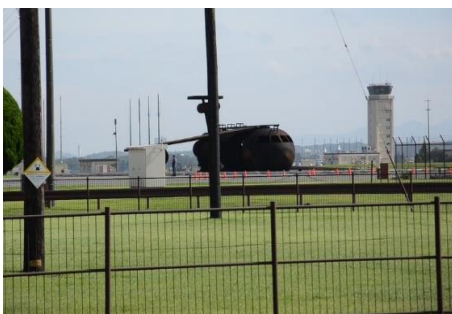
私が小学校に入学したのは1965年です。ちょうどベトナム戦争がたけなわの頃で、当時住んでいた日野市多摩平の上空をやや離れた空路が横田アブローチで、ひっきりなしに戦闘機やヘリコプターの編隊、様々な輸送機が爆音とともに飛んできたのをよく覚えています。やがて戦争は終わり、数こそ少なくなりましたが、横田が中国や朝鮮半島を睨む前線基地であることにかわりはなく、各種航空機が飛んできています。最近ではオスプレイの演習が目立ちます。独特の騒音で家中にいてもすべわかります。(その後日野市東平山に移転しさらに横田空路の真下に近づきました。)



本文とは関係がありません

姿をあまり見られなくなっているのか夜間に飛行するものが多いです。輸送機や空中給油機の飛来が多くなると「何か起きたのか」と思ってしまう。さて、現在の勤務校は昭島市立の小学校です。我が家ほど横田離発着の航空機の騒音に悩まされることはありませんが、子どもたちはそれなりに危機感

をもって生活しているようです。ロシアのウクライナ侵攻が起きた時、6年生の児童と話をしたところ、「プーチンに何かあったら、東京も核攻撃で狙われるようになっていっているという噂を聞いた。」と聞いていた子がいました。6年生ともなればインターネットなどにも詳しい児童もいるので、そこで仕入れた話らしいのですが、戦争に対して漠然とした不安を持っていてことは明らかです。そこで「日本はもう戦争はしないという憲法をもっているから安心だよ。」という話をしました。ちなみに「先生は公務員で、教師になるにあたって憲法を守ることを宣誓した。」とも。一方、5年生のある児童と話した時には、「日本は何かあってアメリカ力が守ってくれるんだ。」と言っていました。おそらく親がそのように言っているのだと思いますが、相



手は小学生ですから、意見を押し付けるのではなく、とりあえず話を聞いて「こういう意見もあるよ。」と答えるようにしています。熊井啓監督の「日本列島」という映画があります。主演は宇野重吉、芦川いずみです。ロケ地の一つが昭島市立拝島第二小学校です。物語は戦後の怪事件とそれを暴こうとする主人公、アメリカの軍隊をも抑えしてしまう強大な組織の存在(CIA?)。最後のシーンでは教員役の芦川いずみが、「諦めてしまっただ世の中は変わらない、ずっと教員を続けて子供たち

を育てていきたい。」という意味の言葉を語るシーンが印象的な作品です。DVDも発売されていますので、ぜひご覧になるとよいかと思います。

—編集委員から—

○会員の皆さんからの原稿を募集しています。日頃感じていることや平和への思い、旅のエッセーなど1000字前後でお気軽に投稿してください。

宛先: 〒190-0033 立川市一番町 6-17-1-20-305 佐々木憲幸

メール: snmty.s@beach.ocn.ne.jp

○機関紙の発送を郵送ではなくメールで希望される方はお申し出ください。

横田基地関連情報

血中から高濃度

PFAAS

「多摩地域のPFAAS汚染を明らかにする会」は、多摩地域の水道水から人体に有害な有機フッ素化合物（PFAAS）が検出されたことを受け、多摩地域住民650人の血液検査を実施し、6月8日記者会見を開いてその結果を公表しました。検査にあたった京都大学の原田准教授によると、50%を上回る方の血中濃度が米指標値の20ng/mlを上回り、



横田基地東側の国分寺や立川で高濃度だったことから、泡消火剤を長年使用してきた米軍横田基地が汚染源になっていること以外説明がつかないと指摘しました。

水道水のPFAAS汚染については、汚染除去を行政に求めるとともに、米軍横田基地への立ち入り調査と日米地位協定の改定が必要です。

横田基地所属機による危険訓練 各地で激化

● 通告なしオスプレイから降下訓練

6月5日、7日に米軍横田基地で周辺自治体に通告せずにCV22オスプレイからのパラシュート降下訓練を実施したことがわかりました。従来はC130などからの降下訓

練でしたがオスプレイからの訓練は異例です。



今回2日間で30人を超える海兵隊員が降下しましたが、過去には基地外に降下したり、パラシュートを落下させたりする事故を繰り返しています。

● 青森県小川原湖でオスプレイホバリング

6月14日、青森県小川原湖に米軍横田基地所属のCV22オスプレイが飛来し、ホバリングしながら人員を引き上げるなどの危険な訓練を繰り返しました。小川原湖はシジミ漁などの漁業が盛んで、野

鳥の生息地ですが米軍三沢基地に隣接し、過去には燃料タンクを落下させるなどの重大事故を起こしています。

● KC130富士山北側で給油訓練

6月15日、富士山北側の山梨県上空でKC130空中給油機がF35B

戦闘機に空中給油を行いました。米海兵隊による富士山周辺での市街地上空での空中給油は2020年から常態化しています。東富士演習場では自衛隊を敵役にした実践演習「シオンカ23」が行われていて今回の給油訓練はその一環とみられます。

絵手紙 内山京子さん (立川市)



歌は心をつなぐ

木村陽介さん



アンプも携帯

今回インタビューをしたのは2017年7月からずーっとこの行動に参加している木村陽介さんです。

「コロナ禍で一時中断しましたが、木村さんの言では「基本でない」ので比較的早く再開されたということ。木村さんはただ参加するだけでなく、参加した人々を勇気づけ、また無関心な人々の心に少しでも平和への関心を寄せてもらおうと、ギターの弾き語りで平和の大切さを呼びかけています。

ギターは繊細な楽器ですから、屋外での演奏は楽ではありません。木村さんはバイクに重いアンプを積んでギターを持って参加します。

キッカケは歌声運動にかかわるようになり、三多摩青年合唱団の人たちに誘われ平和行進の送り出しに参加したことだそうです。

今では参加することが当たり前になってしまっているのですが、いつ頃、何故と私の当然の質問に答えられず、古いスケジュール帳を調べてやっと思い出したという驚かされる状態です。

憲法9条を守る活動にも

立川では毎月9日に憲法9条を守る市民運動の駅頭宣伝行動が定例化しています。

毎回20人ほどの人々が参加していますが、木村さんはここでも常連です。歌とお話で日本の憲法のすばらしさ、9条の輝きを訴えています。

最近増えているのが、立川の自衛隊へのオスプレイ

イ飛来の時もそうですが、右翼による妨害行動です。ひるまずに声を上げるのが大事だと強調しています。

立川での宣伝活動は歌って訴えることですが、横田の座り込みでは必ず参加者全員で歌う機会が作られています。みんなが歌うとき、気持ちが一つにま

とまっていくなことを強く感じるそうです。

運動の前進には、みんなの気持ち溶け合うことが大切だと思いますが、歌にはその力があるということを実感しています。これからもみんなと一緒にいろんな歌を歌い続け、運動の前進に貢献したいと明るく話してくれました。

(文責河野)

総会で承認された2023年度役員です。

- 代表世話人：島田清作、井出由美子、佐々木憲幸
- 事務局長：佐々木憲幸
- 事務局次長：淡路真実
- 会計：井出由美子
- 会計監査：藤谷安秀
- 機関紙編集委員：岩田克彦、河野詮、風間実良、佐々木四郎、佐々木憲幸
- オスプレイ反対連絡会：清水多恵子、佐々木憲幸
- 世話人：盛岡暉道、島田清作、井出由美子、清水多恵子、糸永辰文、小玉博美、佐々木憲幸、三宅博光、風間実良、新田紘一、岩田克彦、淡路真実